

鎌倉 夢支えるタケノコ

被災した神大生へ奨学金



一風変わった趣旨のタケノコ料理会が29日、鎌倉市御成町の市福祉センターで開かれた。集まったのは、東日本大震災で被災しながら、奨学金に支えられ大好きな水泳を続けている神奈川大の男子学生と、彼を支援しようという人たち約120人。振る舞われた料理には、大勢の善意が込められていた。(遠藤 綾乃)

藤田さん「日本代表する水泳選手に」

神大2年の藤田真平さん(19)は2011年3月、宮城県気仙沼市で被災した。実家は焼失し、プール施設も激しく損壊。数々の記録を刻み、将来を嘱望されていたスイマーの生活は、震災で一変した。失意の中、同年4月に相模原市で開催されたチャリティー大会に参加した際、思わぬ出来事に遭遇した。神大水泳部に声を掛けられたのだ。そして今、被災した若者を支援する「DREAMS OND (DORROW (ビーン ドトゥモロー))」(一般財団法人教育支援グローバル

基金主催)の奨学金を受けながら、勉強と練習の日々を送っている。

この奨学金の一部を「鎌倉のタケノコ」が支えているのだ。被災地を支援しようとして、鎌倉市の大木実さん(当時66)が昨年4月、所有する山で採れるタケノコを使った料理会を開催。約150人が参加し、収益金約18万円をDREAMS OND (DORROW)に寄付した。

また翌春も一と意気込んでいた中、実さんが急逝。会の存続が危ぶまれたが、次男の真徳さん(31)が家族が遺志を継いだ。「父ほどうまくは掘れなかった」というが、足りない分は趣旨に賛同した藤沢市の男性もタケノコを提供。さまざまな善意に支えられ、2回目の料理会が開かれた。旬の味覚を使った10種のメニューは、地元で料理教室を開いている夢沼誠(さん(78)が考案し、教室の生徒らと腕を振るつたもの。真徳さんたちと初めて顔を合わせ、「さまざまな方の善意を忘れず頑張っ、日本を代表する選手になりたい」と、うれしそうに料理を頬張った藤田さん。料理会の面々は「タケノコのように子どもたちがすくすく育つよう応援し続けたい」と奮起した様子だった。

多彩なタケノコ料理に笑顔の藤田さん(右)と大木真徳さん
鎌倉市福祉センター